

日本学術会議第165回総会資料

(第22期 第5回)

平成25年10月 2日(水)

10月 3日(木)

10月 4日(金)

日 本 学 術 会 議

一 般 的 注 意 事 項

1 出席のサインについて

総会に出席される方は、受付で出席のサインをお願いします。

2 旅費の支給について

旅費請求書を配付いたしますので、押印してください。

3 発言する場合

発言を要求する際には挙手をし、議長から指名された後に、最寄りのマイクを通して所属部、氏名を言ってから発言してください。

4 委員会開催の周知について

休憩時等に委員会を開催する場合は、エレベーターわきの電光掲示板にてお知らせいたします。

5 その他

配付資料については、お持ち帰りいただきますようお願いいたします。
なお、不要な資料は席上にお残してください。

第 1 6 5 回総会日程

— 第 2 2 期第 5 回 —

第 1 日程表

	10:00	12:00	13:30	15:00	16:30
10月2日 (水)	総会 ・山本科学技術政策 担当大臣挨拶 ・提案説明、採決 ・会長活動報告 ・各副会長活動報告 ・年次報告書報告	昼休み	総会 ・田中耕一先生に よる特別講演 ・審議経過報告 ①フューチャー・ア スの推進に関する 委員会 ②健康・生活科学委員 会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実 現分科会	部会	幹事会
	10:00	12:00	13:30	16:00	
10月3日 (木)	部会	昼休み	総会 ・審議経過報告 ③東日本大震災復興支援委員会福 島復興支援分科会 ④国際リニアコライダー計画に関 する検討委員会 ・各部活動報告 ・平成 26 年 10 月の会員・ 連携会員改選の説明 ・事務局から送付する添付ファイル 付メールの自動暗号化について ・平成 2 5 年度会員手当等の執行状 況について ・自由討議		
	10:00				
10月4日 (金)	各種委員会等				

(総会中の日程は、審議の状況により変更される場合があります。)

第 2 会場

総 会……講 堂

その他委員会等……当日掲示板等で通知

報	1
総 会	1 6 5

日 本 学 術 会 議 活 動 状 況 報 告

平成 2 5 年 1 0 月 2 日

前回（第 1 6 5 回）総会以降の活動状況報告

第 1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
4 月 4 日（木）～ 6 日（土）	W S F 運営委員会（フランス パリ）	春日副会長
4 月 4 日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
4 月 7 日（日）～ 9 日（火）	Future Asia 会議（台湾・台北）	大西会長、春日副会長
4 月 11 日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
4 月 17 日（水）	総合科学技術会議 本会議	大西会長
4 月 18 日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
4 月 24 日（水）	第 29 回日本国際賞授賞式・祝宴	家副会長、春日副会長 （祝宴のみ）
4 月 25 日（木） ～26 日（金）	S T S フォーラム 評議員会（フランス・パリ）	大西会長
4 月 26 日（金）	Reception on the occasion celebrating South Africa' s Freedom Day (National Day) （明治記念館）	春日副会長
5 月 6 日（月）～ 10 日（金）	第 13 回アジア学術会議（タイ・バンコク）	大西会長、春日副会長
5 月 16 日（木）	衆議院・科学技術・イノベーション推進特別委員会 ※参考人	大西会長
5 月 20 日（月）	日・E U キャリアデー（駐日欧州連合代表部） ※挨拶	大西会長
5 月 20 日（月）	日本地球惑星科学連合 2013 年大会（幕張メッセ） ※講演	春日副会長

5月21日(火) ～25日(土)	UNISDR 国連国際防災戦略会議(スイス ジュネーブ)	大西会長
5月26日(日)	市民公開シンポジウム「タバコをやめれば笑顔 が戻る」(福島県郡山市) ※口演	小林副会長
5月27日(月)	Kavli 賞レセプション(ノルウェー大使館)	大西会長
5月29日(水)	G8サミットに向けた各国学術会議の共同声明 の総理手交(総理大臣官邸)	大西会長、春日副会長
6月1日(土)	第2回野口英世アフリカ賞授賞式・記念晩餐会	大西会長
6月4日(火)	第2回野口英世アフリカ賞受賞記念講演会 ※パネル討論、閉会挨拶(国連大学)	春日副会長
6月5日(水)	第11回福島県「県民健康管理調査」検討委員会 (福島県)	春日副会長
6月5日(水)	第28回国際化学療法学会学術会議開会式 ※ 開会挨拶(横浜)	春日副会長
6月6日(木)	総合科学技術会議 本会議	大西会長
6月6日(木)	総理と総合科学技術会議メンバーとの夕食会 (官邸)	大西会長
6月8日(土)	公開シンポジウム「Response to Power shift under the Age of Globalized Economy グロー バル化における『パワーシフト』への対応」 ※開会挨拶、総括コメンテーター	小林副会長
6月10日(月) ～13日(木)	G8 科学技術担当大臣及びG8 科学アカデミー会 長会合(イギリス ロンドン)	大西会長
6月13日(木)	ヨルダン国王即位14周年、第67回独立記念日 祝賀会 出席	春日副会長
6月17日(月)	日本学士院第103回授賞式 出席	家副会長、春日副会長
6月18日(火)	日本学術会議主催学術フォーラム「Future Earth: 持続可能な未来の社会へ向けて」 ※開会挨拶、閉会挨拶	大西会長、春日副会長
6月21日(金)	公開シンポジウム「科学・公益・社会—情報発 信のあり方を考える」※講演	大西会長
6月21日(金)	駐日欧州連合代表部でのDinner(駐日EU大使 公邸)	大西会長
6月23日(日)	第11回世界生物学的精神医学会国際会議(京 都)	大西会長
6月24日(月) ～28日(金)	第13回IAC理事会(オランダ アムステルダム)	大西会長、春日副会長
7月4日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
7月4日(木)	24年度科学技術戦略推進費による 第3回「ほ 場環境に応じた農作物への放射性物質移行低減	大西会長

	対策確立のための緊急調査研究」実施WG	
7月11日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
7月12日(金)	平成25年度第1回日本学術会議中部地区会議 運営協議会及び学術講演(長野県) ※講演	大西会長
7月13日(土)	公開シンポジウム「3.11後の科学と社会 福島 から考える」(福島県) ※挨拶、総合討論	大西会長、 小林副会長
7月18日(木)	JST 科学技術振興機構 第6回有識者研究会	大西会長
7月18日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
7月24日(水)	CSTP 有識者議員と農林水産技術会議委員との意 見交換会	大西会長
7月25日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
8月1日(木)～ 2日(金)	第三部夏季部会(名古屋大学)	大西会長 家副会長
8月2日(金)～ 3日(土)	第二部夏季部会(京都大学)	大西会長 春日副会長
8月5日(月)	2013年京都国際地理学会議(京都国際会館)	大西会長
8月7日(水)	学術フォーラム「社会の中の、社会のための科 学技術イノベーションの推進」※総合司会	大西会長 家副会長
8月8日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
8月9日(金)	第10回 科学技術イノベーション政策推進専門 調査会	大西会長
8月12日(月) ～16日(金)	生物兵器禁止条約(BWC) 専門家会合 (スイス ジュネーブ)	春日副会長
8月15日(木)	平成25年全国戦没者追悼式(日本武道館)	大西会長
8月20日(火)	第12回福島県「県民健康管理調査」検討委員会 (福島県)	春日副会長
8月22日(木)	第3回アジア太平洋発達障害会議(早稲田大学 国際会議場)	大西会長
8月24日(土) ～25日(日)	第一部夏季部会	大西会長、小林副会長
8月27日(火)	第5回国際デザイン学会連合国際会議(芝浦工 業大学豊洲キャンパス)	大西会長
8月30日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
9月5日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長、春日副会長

9月13日（金）	総合科学技術会議有識者会合本会議	大西会長
9月14日（土）	東北地区会議公開学術講演会サイエンストーク「宇宙ファミリー」（八戸地域地場産業振興センター）	大西会長
9月14日（土）	第12回ヒトプロテオーム機構国際会議開会式（横浜） ※主催者挨拶	春日副会長
9月19日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
9月15日（日）	公開シンポジウム「低投票率を問題としてどうとらえるか」（北海学園大学） ※司会	小林副会長
9月23日（月）	第16回コンピュータ医用画像処理ならびに支援治療に関する国際会議開会式（名古屋大学） ※主催者挨拶	春日副会長
9月25日（水） ～29日（日）	26th CSPR Meeting（フランス パリ）	春日副会長
9月26日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
9月30日（月）	文部科学省研究振興局長 回答手交	家副会長

第2 表敬訪問

月 日	会 議 名（開催地）	対応者
6月7日（金）	駐日イスラエル大使による表敬	大西会長、春日副会長
7月18日（木）	ガーナ人文科学アカデミー会長による表敬	大西会長、春日副会長
9月6日（金）	チリ科学技術研究委員会会長による表敬	春日副会長
9月10日（火）	南アフリカ共和国科学技術省多国間協力課長及び科学技術担当公使参事官による表敬	大西会長、春日副会長

第3 会長談話

次の会長談話を公表した。

- 1 「真に成果の出る日本版 NIH 構築のために」

（平成25年6月21日公表）

- 2 「科学研究における不正行為の防止と利益相反への適切な対処について」

（平成25年7月23日公表）

第4 提言等の承認

○回答

1 日本学術会議

回答「国際リニアコライダー計画に関する所見」

(平成25年9月30日公表)

○提言

1 社会学委員会 社会福祉学分科会

提言「災害に対する社会福祉の役割—東日本大震災への対応を含めて—」

(平成25年5月2日公表)

2 社会学委員会 東日本大震災の被害構造と日本社会の再建の道を探る分科会

提言「原発災害からの回復と復興のために必要な課題と取り組み態勢についての提言」

(平成25年6月27日公表)

3 第二部 ゲノムコホート研究体制検討分科会

提言「100万人ゲノムコホート研究の実施に向けて」

(平成25年7月26日公表)

4 健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会

提言「無煙タバコ製品（スモースを含む）による健康被害を阻止するための緊急提言」

(平成25年8月30日公表)

5 東日本大震災復興支援委員会 福島復興支援分科会

提言「原子力災害に伴う食と農の「風評」問題対策としての検査態勢の体系化に関する緊急提言」

(平成25年9月6日公表)

○報告

1 健康・生活科学委員会 家政学分野の参照基準検討分科会

報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：家政学分野」

(平成25年5月15日公表)

2 機械工学委員会 機械工学分野の参照基準検討分科会

報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：機械工学分野」

(平成25年8月19日公表)

3 医師の専門職自律の在り方に関する検討委員会

報告「全員加盟制医師組織による専門職自律の確立—国民に信頼される医療の実現のため」

めにー」

(平成25年8月30日公表)

4 歯学委員会

報告「我が国における歯科医学の現状と国際比較 2013」

(平成25年9月2日公表)

5 数理学委員会 数理学分野の参照基準検討分科会

報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：数理学分野」

(平成25年9月18日公表)

第5 日本学術会議主催学術フォーラム

- 1 日本学術会議主催学術フォーラム「Future Earth：持続可能な未来の社会へ向けて」を平成25年6月18日（火）に日本学術会議講堂にて開催した。
- 2 日本学術会議主催学術フォーラム「教養教育は何の役に立つのか？ ジェンダーの視点からの問いかけ」を平成25年6月29日（土）に日本学術会議講堂にて開催した。
- 3 日本学術会議主催学術フォーラム「格差社会における子ども子育て政策のこれから」を平成25年7月7日（日）に日本学術会議講堂にて開催した。
- 4 日本学術会議主催学術フォーラム「社会の中の、社会のための科学技術イノベーションの推進」を平成25年8月7日（水）に日本学術会議講堂にて開催した。
- 5 日本学術会議主催学術フォーラム「科学・技術を担う将来世代の育成方策を考えるー教育と科学・技術を価値創造につなぐためにー」を平成25年8月12日（月）に日本学術会議講堂にて開催した。
- 6 日本学術会議主催学術フォーラム「新型出生前診断の広がりや遺伝医療の発展への対応：ヒトの遺伝と遺伝性疾患の正しい理解に向けて」を平成25年9月7日（土）に日本学術会議講堂にて開催した。
- 7 日本学術会議主催学術フォーラム「こころの健康社会の創造に向けて」を平成25年9月7日（土）に東京大学医学部鉄門記念講堂にて開催した。

第6 国際会議の開催

- 1 「第28回国際化学療法学会」を平成25年6月5日（水）～6月8日（土）に神奈川県にて開催した。
- 2 「第11回世界生物学的精神医学会国際会議」を平成25年6月23日（日）～6月

27日（木）に京都府にて開催した。

3 「2013年京都国際地理学会議」を平成25年8月4日（日）～8月9日（金）に京都府にて開催した。

4 「第3回アジア太平洋発達障害会議2013」を平成25年8月21日（水）～8月24日（土）に東京都にて開催した。

5 「第5回国際デザイン学会連合国際会議」を平成25年8月26日（月）～8月30日（金）に東京都にて開催した。

6 「第12回ヒトプロテオーム機構国際会議」を平成25年9月14日（土）～9月18日（水）に神奈川県にて開催した。

7 「第16回コンピュータ医用画像処理ならびに支援治療に関する国際会議」を平成25年9月22日（日）～9月26日（木）に愛知県で開催した。

第7 日本学術会議地区会議

1 日本学術会議中部地区会議学術講演会「応用を拓く基礎科学の新展開－化学と医学の分野から」を平成25年7月12日（金）に長野県にて開催した。

2 日本学術会議東北地区会議学術講演会「サイエンストーク『宇宙ファミリー』」を平成25年9月14日（土）に青森県にて開催した。

第8 慶弔等

1 慶事

平成25年春の叙勲受章者

【瑞宝重光章】

井口 雅一（元連携会員（第20-21期）、元会員（第17-19期））

垣添 忠生（連携会員（21-22期）、元会員（第20期））

梶村 皓二（元連携会員（第20-21期））

【瑞宝中綬章】

佐藤 文隆（元連携会員（第20-21期）、元会員（第18期））

鶴田 満彦（元会員（第17-18期））

中村 恒善（元会員（第17-18期））

三輪 睿太郎（連携会員（第22-23期））

平成25年春の褒章受章者

【紫綬褒章】

寺崎 哲也（連携会員（第22-23期））
大政 謙次（会員（第22-23期）、連携会員（第20-22期））
西川 恵子（連携会員（第20-23期））
川人 光男（連携会員（第21-22期））
小長谷 有紀（連携会員（第20-22期））
都甲 潔（連携会員（第21-22期））

2 ご逝去

平野 禮次郎（ひらの れいじろう） 7月1日 享年85歳
元会員（第14、15期） 東京大名誉教授

北村 貞太郎（きたむら ていたろう） 9月20日 享年79歳
元会員（第14～16期） 京都大学名誉教授

島本 功（しまもと こう） 9月28日 享年63歳
連携会員（第22期） 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科教授

第9 その他

事務局人事異動

事務局長
旧：齋藤 敦
(平成25年6月27日付)

新：田口 和也
(平成25年6月28日付)

参事官（審議第二担当）
旧：石原 祐志
(平成25年7月31日付)

新：盛田 謙二
(平成25年8月1日付)

日本学術会議の 活動報告と方針 2013年4月－10月

報	2
総 会	1 6 5



2013年10月2日
第22期日本学術会議会長
大西隆

1

1－1 22期の方針と2013年4月 －10月の活動実績



- 科学者の意見集約機能強化
 - 委員会等テーマ・委員募集 新規4課題別委員会
 - 委員選考制度整理。副会長・部からの推薦、内部公募、会長の裁量
 - 会長・副会長 幹事会だより、学術の動向へのメッセージ等情報発信
- アカデミーの国際連携への貢献
 - FE/ICSU、STSフォーラム、SCA、UNISDR、G8UK、IAC等に参加
- 国民との連携及び内外に向けた情報発信力
 - メディア対応、対メディアへの説明

2

1－2 2013年4月－9月の活動方針



- ① 東日本大震災復興支援の一層の促進
6分科会の活動を促進し。原子力の電力利用、非電力利用の在り方について審議。
- ② 学術の社会貢献・社会的責任、さらに科学者の倫理
「科学者の行動規範(改訂版)」の普及を図る。諸機関と連携して、科学者の社会貢献、倫理問題の理解を深める。
- ③ 科学技術立国を支える学術の発展
科学技術研究促進。また大学教育の質保証の審議の加速化。大型研究施設・研究計画について具体的な課題を提示。
- ④ 科学技術分野の国際交流の推進
Future Earthへの具体的な貢献。国際アカデミー組織において積極的な役割を担う。二国ベース、地域ベースの学術交流をさらに発展させる。
- ⑤ 会員・連携会員選考の基本方針の策定
優れた研究又は業績ある科学者のうちから会員候補者を選考する。加えて、男女比・地域バランス・新分野開拓等に配慮。若手アカデミーの確立。

3

2－1 2013年4月－9月の実績



①東日本大震災復興支援の一層の促進

- ・ 提言
 - － 「原子力災害に伴う食と農の「風評」問題対策としての検査態勢の体系化に関する緊急提言」(復興支援)
 - － 「原発災害からの回復と復興のために必要な課題と取り組み態勢についての提言」(社会学)
 - － 「災害に対する社会福祉の役割－東日本大震災への対応を含めて」(社会学)
- ・ 7つ目の分科会 汚染水対応検討分科会 設置
 - － 既設の6分科会とともに審議開始
- ・ イベント
 - － 3・11後の科学と社会-福島から考える(1部主催福大共催 公開シンポジウム 7月開催)



②学術の社会貢献・社会的責任、さらに科学者の倫理

- 科学研究に関わる不正が社会問題
- (会長談話)「科学研究における不正行為の防止と利益相反への適切な対処について」(7月23日)
 - － ノバルティスファーマ社問題
 - － 学術会議のこれまでの取組
 - － 委員会設置・半年で結論(行動規範の学習・普及、医薬品関係研究態勢の改善)
- 科学研究における健全性の向上に関する検討委員会、同臨床試験制度検討分科会発足
 - － 行動規範の一層の普及・実践、臨床研究のあり方改善
- 2013年7月から半年間でとりまとめ、さらに実践し、「生命科学をはじめとする科学研究が、その健全性と研究水準において世界最高水準」へ。



③科学技術立国を支える学術

- 総合科学技術会議議員として
 - － 科学技術イノベーション総合戦略(2013年6月)
 - － 平成26年度科学技術に関する予算等の資源配分方針(2013年7月)
 - ・ 科学技術重要施策アクションプランによる政策誘導
 - ・ 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)
 - ・ 革新的研究開発支援プログラム(ImPACT)
- 大型研究施設・研究計画－学術会議全体で作業進行
- 大学教育の分野別質保証委員会・各分野分科会
 - － 家政学、機械工学、数理科学で報告
- (会長談話)「真に成果の出る日本版NIH構築のために」(6月21日)
 - － 日本版NIH提案を評価
 - － 米国NIHの豊富な予算、基礎と応用の連携
 - － 進めるに際しては、基礎研究と応用研究を車の両輪に
 - － 日本版NIHは科研費と並行して発足
- 回答「国際リニアコライダー計画に関する所見」
 - － 超大型の国際的研究計画に対する学術からの見解をまとめる



④科学技術分野の国際交流の推進

- ICSU Lee会長らとのFEに関する会合(台北)、STSフォーラム(パリ)、SCA理事会・大会(バンコク)、UNISDR(ジュネーブ)、G8UK(ロンドン)、IAC理事会(アムステルダム)
- G-Science 声明を首相に手交(5月)
 - 持続可能な開発の促進:科学技術イノベーションの役割
 - 病原性微生物の薬剤耐性問題:人類の脅威
- TICAD Vへの参加 展示ブース(G-science 共同声明等紹介)
- Future Earth研究プログラムの推進
 - 学術フォーラム「FE:持続可能な未来の社会に向けて」(東京地区で最初のFE関係総合的イベント)(6月)
 - 国際SCメンバーに安成哲三会員選出
 - フューチャーアースの推進に関する委員会設置(6月)
 - 常設国際事務局・地域拠点に応募(9月)
- IAC理事国に選出(6月)。
- G8UK(大臣・会長会合) 科学技術政策と科学アカデミーの連携強化



⑤会員・連携会員選考の基本方針の策定

- 23期会員・連携会員選考方針 集約中
 - コ・オペレーションによる選考定着
 - 女性、(東京・関西外の)地域、新分野、産業界、若手の会員・連携会員拡充
- 若手アカデミーの制度的確立(会則改正)。若手国際連携推進。
- 学・協会との連携強化 協力学術研究団体増加、学会連合体との連携



2-2. 新たに重視すべき活動

①学術の観点からさらに深めるべき課題への取組

(審議依頼型)

- 高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会
- 国際リニアコライダー計画に関する検討委員会

(会員提案型)

- 人口減少が社会の諸システムに及ぼす影響に関する長期展望委員会
- 我が国の研究力強化に資する研究人材雇用制度検討委員会
- 科学者からの自律的な科学情報の発信の在り方検討委員会
- 日本学術会議の第三者評価機能に関する検討委員会



2-2. 新たに重視すべき活動

②助言力、発信力の強化

- 学術分野の社会的課題に対するリアルタイムの対応
 - 2つの会長談話(日本版NIH、科学研究の健全性)
 - ILCへの回答
- 緊急提言
 - 福島関連 農作物の風評被害対策
 - 無煙タバコ製品健康被害



2-2. 新たに重視すべき活動

③予算の合理的な活用と新たな予算獲得

- 決算で、2012年度 手当ほぼ過不足なし、旅費若干の余裕。会員・連携会員のご協力に御礼。
- 2013年度、全委員会で会議開催計画作成。計画的開催。
- しかし、今年度も手当はやや不足する可能性あり。
- そのため、手当については10月から暫定辞退の協力要請。旅費についてはウォッチ。
- 概算要求では政府全体のガイドラインに対応しつつ、会員選考、科学研究健全性等で増額要求。



2-3 半年間の活動の総括

- 方針に対応して種々の活動を行い、成果があった。対外的にも、種々注目された。
- 特に、「科学研究の健全性」や「ILC」等で、緊急的課題に対応したことは重要。
- じっくり取り組む課題、緊急に対応すべき課題への取組。さらに社会との連携を強化。

3. これから半年間の方針

実質的な審議のまとめと会員・連携会員選考

- 科学者の意見集約、科学アカデミーの国際連携、国民との連携・情報発信力強化は引き続き方針として堅持。
- 2014年3月まで、以下を重点として活動する
 - － 東日本大震災復興支援 汚染水問題への対処、福島復興支援に注力し、支援継続。
 - － 科学研究健全性 1月までに方針取りまとめ、具体化し実践。
 - － 科学技術イノベーション推進 国民、産業界等との連携強化。大型研究計画取りまとめ。
 - － 科学技術の観点から助言、提言すべき社会問題に的確に対応。
 - － 国際交流 STSフォーラム、IAP理事会、WSF、ICSU、G-Science。さらにFE研究推進、国際社会の2015年問題に主導的に対応。
 - － コ・オペレーションによる23期会員選考 的確な推薦、学協会からの情報提供を受ける。
 - － 予算の的確な執行管理 来年度予算の適切な確保。

報	3
総 会	1 6 5

小 林 副 会 長 報 告
組織運営及び科学者間の連携に関する活動報告
(平成 25 年 4 月～平成 25 年 9 月)

副会長 小林 良彰

1. 科学者委員会の活動報告

科学者委員会では科学者間の連携に関して、日本学術会議協力学術研究団体の指定、地区会議との連携などの審議を行うとともに、委員会に設置されている 7 分科会をとりまとめている。科学者委員会は、平成 25 年 4 月以降、1 回の会議と 15 回のメール審議を行った。

(1) 日本学術会議協力学術研究団体の指定

日本学術会議協力学術研究団体指定への新規申請に対する審査のための指定要件における「研究者」の定義(範囲)を検討し、円滑な審査が行えるようにした。なお、平成 25 年 10 月 1 日における指定団体数は 1950 (連合体を含む) である。

(2) 地区会議との連携

平成 25 年度上半期には、各地区会議運営協議会、学術講演会及び地域科学者との懇談会等を 2 件(松本、八戸)開催した。なお、地域科学者との交流を深めるために、地区会議の学術講演会等には、可能な限り会長又は副会長が出席している。

2. 科学者委員会の分科会活動報告

(1) 広報分科会

平成 25 年度上半期に、5 回(うちメール審議 3 回)開催し、広報活動の状況を確認し、月刊誌『学術の動向』の編集について審議した。テーマを選定する際に学術分野のバランスに留意するとともに、掲載内容の公募を行った。

(2) 男女共同参画分科会

平成 25 年度上半期に 1 回開催した。学術界における男女共同参画推進に関する調査のために、協力学術研究団体に対して実施した代表・会員の女性比率等に関するアンケートの結果の分析を踏まえて、大学対象の調査を実施した。

(3) 学術体制分科会

平成 25 年度上半期に 1 回開催し、今後の学術体制のあり方等について議論した。

(4) 学協会の機能強化方策検討等分科会

平成 25 年度上半期に 1 回開催し、新公益法人法による公益法人への移行状況のアンケート調査結果の分析に基づき、学協会に対して法人化を促進するメッセージを送付した。また、上記の成果を公開するために平成 25 年 10 月にシンポジウムを行うことを計画した。

(5) 学術の大型研究計画検討分科会

平成 25 年度上半期に 6 回開催した。マスタープラン報告「第 22 期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」に基づいて「学術大型研究計画」の公募を行った結果を取りまとめ、さらにヒヤリングを行って重点計画の絞り込みを行っている。

(6) 学術誌問題検討分科会

平成 25 年度上半期に 2 回開催した。学協会に対して行ったアンケート調査の結果を分析して、国際情報発信力の強化に向けた学術誌の諸問題を検討した。

(7) 知的財産検討分科会

平成 25 年度上半期には開催なし。

3. 会員・連携会員向けの電子掲示板

会員及び連携会員が利用できる公式の電子掲示板の整備を進め、会員及び連携会員が掲示板による意見交換をできるようにした。また、幹事会における資料の共有等でも活用しているほか、委員会や分科会でも利用されているが、電子掲示板を見る会員・連携

会員は多くても意見を述べる会員・連携会員が限定的であることから、今後の活用が期待される。

4. 遠隔会議

ビデオ会議により遠隔地から参加する委員も委員会開催の定足数に含めることとする制度の改定を行い、Skype、および Web 会議システム V-CUBE の試行を経て、平成 25 年度上半期には遠隔会議による委員会等を約 70 件開催した。参加者が 87 名ほどの比較的大きな会議も行われ、また 11 地点からの参加のあった会議もあったが、多くは 1～2 名が遠隔地から参加した。

5. 若手アカデミー

幹事会附置の「若手アカデミー委員会」で若手の連携会員による自律的な活動を試行しつつ、平成 25 年度上半期には、45 歳以下の若手の会員及び連携会員による第 23 期の「若手アカデミー」発足に向けて具体的な会則などの関連法規の改正を検討している。また、学術の未来像検討分科会において若手科学者の視点から学術の未来像を審議し、若手研究者ネットワーク検討分科会において国内の若手研究者を繋ぐネットワークを整備し運営を開始した。

日本学術会議における 組織運営及び科学者間の連携

「組織運営及び科学者間の連携」担当副会長
小林良彰

科学者委員会の活動
(平成25年4月～25年9月)

【日本学術会議協力学術研究団体の指定】

形式要件

- ・会員数が一定数以上いるか？
- ・特定の大学に偏っていないかどうか？

主な審査基準

- ・学術研究の向上発達が主たる目的か？
- ・研究者が構成員の半数以上か？
- ・役員の半数以上が研究者か？
- ・学会誌を発行しているか？

【地区会議主催学術講演会】

日本学術会議中部地区会議学術講演会「応用を拓く基礎科学の新展開－化学と医学の分野から」（平成25年7月12日開催 信州大学 理学部C棟2階大会議室）



日本学術会議東北地区会議学術講演会「サイエンストーク『宇宙ファミリー』」（平成25年9月14日開催 ユートリー 八戸地域地場産業振興センター）

広報分科会

月刊誌『学術の動向』の編集について審議。
テーマ選定の際に学術分野のバランスに留意し
掲載内容の公募を行った。

男女共同参画分科会

協力学術研究団体に対して実施した代表・会員の女性比率等に関するアンケートの結果の分析を踏まえて、大学対象の調査を実施した。

学術体制分科会

基礎研究や基礎的経費の重要性について検討し、提言を取りまとめる予定。

学協会の機能強化方策検討等分科会

公益法人法への移行状況のアンケート調査結果の分析に基づき、学協会に対して法人化を促進するメッセージを送付。また、上記の成果を公開するために平成25年10月22日13pm～於、学術会議でシンポジウム「学協会の新公益法人法への対応の現状と展望」を行う。

学術誌問題検討分科会

学協会に対して行ったアンケート調査の結果を分析して、国際情報発信力の強化に向けた学術誌の諸問題を検討した。

学術の大型研究計画検討分科会

マスタープラン報告「第22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」に基づいて「学術大型研究計画」の公募を行った結果を取りまとめ、さらにヒヤリングを行って重点計画の絞り込みを行っている。

学術の大型研究計画検討分科会審議状況

学術の大型研究計画検討分科会

2012年

1月18日(第1回)
～12月3日(第10回)分科会
マスタープラン策定方針の検討

※科学者委員会・幹事会了承

12月21日

【報告】第22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針

2013年

2012年12月25日(第11回)
～2月8日(第14回)分科会
学術研究領域、公募要領の検討

1月21日
公開シンポジウム開催

学術研究領域の制定

2月15日～3月31日

公募

224件
区分Ⅰ: 209件
区分Ⅱ: 15件

4月2日～3日
総会、部会 速報値報告

3月11日(第12回)
～4月22日(第17回)分科会
公募取りまとめ、学術大型研究
計画審査・評価プロセスの検討

審査・評価

4月22日～5月15日
分野(部)別大型研究計画評価
分科会委員による評価

5月20日～6月14日
分野(部)別大型研究計画評価
分科会委員長による評価まとめ

5月10日(第18回)
～6月12日(第19回)分科会
評価総取りまとめ、審査
6月20日(第20回)分科会
①分科会案を決定
7月～ヒアリング対象通知

①学術大型研究計画
分科会案決定

207件
区分Ⅰ: 192件
区分Ⅱ: 15件

学術の大型研究計画検討分科会審議状況及び予定

学術の大型研究計画検討分科会

①学術大型研究計画
分科会案決定

207件
区分Ⅰ: 192件
区分Ⅱ: 15件

7月末
ヒアリング日程通知
9月20日～22日
分科会(ヒアリング)開催

①のうち
区分Ⅰ: 66件

①のうち
区分Ⅰ: 126件
区分Ⅱ: 15件

8月
夏季部会報告

ヒアリング

分野(部)別大型研究計画評価
分科会委員長(または代理人)による評価

(以下、予定)

10月2日
②分科会案を決定
提言作成に向けた準備

審査・評価

10月2日～4日
総会、部会 速報値報告

区分Ⅰ: 25件
程度

②重点大型研究計画
分科会案決定

2014年

※(1月)科学者委員会了承
※(2月)幹事会了承

3月

【提言】第22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン2014

※(4月)総会報告

【若手アカデミー】

国内若手研究者ネットワーク

- ・分野を越えた若手研究者のネットワーク確立
- ・学際融合の新たな研究の創出
- ・若手の意見を集約してアピール
 - ex. 改正労働契約法への若手研究者アンケート
- ・海外の若手研究者組織との連携に参加



報	4
総 会	1 6 5

科学と社会委員会

平成24年10月～平成25年9月の活動

平成25年3月まで小林良彰副会長が担当
平成25年4月以降、家が担当

家 泰弘

政府からの審議依頼への対応

- 文部科学省研究振興局長からの審議依頼「国際リニアコライダー計画に関する審議について」(平成25年5月27日付け)
- 課題別委員会「国際リニアコライダー計画に関する検討委員会」を設置(平成25年5月31日)
- 回答「国際リニアコライダー計画に関する所見」を発出(平成25年9月30日)

⇒ 明日の審議報告で詳しく

東日本大震災関連の提言等

- 提言「災害に対する社会福祉の役割―東日本大震災への対応を含めて―」(平成25年5月2日)社会学委員会 社会福祉分科会(白澤政和委員長)。
- 提言「原発災害からの回復と復興のために必要な課題と取り組み態勢についての提言」(平成25年6月27日)社会学委員会 東日本大震災の被害構造と日本社会の再建の道を探る分科会(船橋晴俊委員長)。
- 提言「原子力災害に伴う『風評』被害対策と検査態勢の体系化に関する緊急提言」(平成25年9月6日)東日本大震災復興支援委員会 福島復興支援分科会(山川充夫委員長)

原子力、放射能関連の委員会

幹事会附置の

原子力利用の将来像についての検討委員会(大西隆委員長)の下に、

原子力発電の将来検討分科会(佐藤学委員長)

原子力学の将来検討分科会 (家泰弘委員長)

を設置した。前者は我が国における将来の原子力発電の在り方、後者は発電以外の原子力利用の在り方について審議を行う。

幹事会附置の東日本大震災復興支援委員会の下に、

汚染水問題対応検討分科会 を設置

提言の発出

- 提言「我が国の研究評価システムの在り方―研究者を育成・支援する評価システムへの転換―」(平成24年10月26日) 研究にかかわる「評価システム」の在り方検討委員会(室伏きみ子委員長)
- 提言「科学・技術を担う将来世代の育成方策～教育と科学・技術イノベーションの一体的振興のすすめ～」(平成25年2月25日) 科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会(柘植綾夫委員長)
- 提言「100 万人ゲノムコホート研究の実施に向けて」(平成25年7月26日) 第二部 ゲノムコホート研究体制検討分科会(浅島誠委員長)
- 提言「日本の経済政策の構想と実践を目指して」平成25年2月25日) 日本の経済政策の設計と具体化検討委員会(鈴木興太郎委員長)

提言の発出(続き)

- 提言「地質地盤情報の共有化に向けて―安全・安心な社会構築のための地質地盤情報に関する法整備―」(平成25年1月31日) 地球惑星科学委員会(永原裕子委員長)
- 提言「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて―成育時間の課題と提言―」(平成25年3月22日) 心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会(五十嵐隆委員長)
- 提言「無煙タバコ製品(スヌースを含む)による健康被害を阻止するための緊急提言」(平成25年8月30日) 健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会(矢野栄二委員長)

報告の発出

- 報告「科学・技術のデュアルユース問題に関する検討報告」(平成24年11月30日)科学・技術のデュアルユース問題に関する検討委員会(吉倉廣委員長)
- 報告「第22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」(平成24年12月21日)科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会(荒川泰彦委員長)
- 報告「我が国における歯科医学の現状と国際比較2013」(平成25年9月2日)歯学委員会(戸塚靖則委員長)
- 報告「全員加盟制医師組織による専門職自律の確立—国民に信頼される医療の実現のために—」(平成25年8月30日)医師の専門職自律の在り方に関する検討委員会(廣渡清吾委員長)

課題別委員会の設置

審議すべき課題の公募を行い、

4つの課題別委員会を新たに設置した。

- 科学者からの自律的な科学情報の発信の在り方
検討委員会
- 我が国の研究力強化に資する研究人材雇用制度
検討委員会
- 人口減少が社会の諸システムに及ぼす影響に
関する長期展望委員会
- 日本学術会議の第三者評価機能に関する検討
委員会

大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準

- 報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：家政学分野」(平成25年5月15日)健康・生活科学委員会 家政学分野の参照基準検討分科会(片山倫子委員長)
- 報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：機械工学分野」(平成25年8月19日)機械工学委員会 機械工学分野の参照基準検討分科会(北村隆委員長)
- 報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：数理科学分野」(平成25年9月18日)数理科学委員会 数理科学分野の参照基準検討分科会(森田康夫委員長)

アウトリーチ活動

【「知の航海」分科会】

- <知の航海>シリーズの企画・執筆支援
美馬のゆり著『リケジョという生き方』

【科学力増進分科会】

- サイエンスカフェ 多数開催
- サイエンスアゴラ(平成25年11月9-10日開催)には、
「若者に発信する日本学術会議:<知の航海>シリーズから」
などの企画で出展。
- (科学者委員会男女共同参画分科会との共同) 平成25年8月8日～10日に独立行政法人国立女性教育会館との共催で「平成25年度女子中高生夏の学校2013—科学・技術者のたまごたちへ—」を開催。

報	5
総 会	1 6 5

国際活動報告[2013年4月～2013年9月]

国際担当副会長 春日 文子

1. 国際委員会及び分科会等の開催

(1) 国際委員会

第 24 回 (4/12) ～第 28 回(9/18) (メール審議含む)

(2) 分科会等

① 国際会議主催等検討分科会

4/9、4/22、5/20、8/19、9/9 (すべてメール審議)

② アジア学術会議分科会

第 9 回 (4/4) ～第 13 回 (メール審議含む)

③ Gサイエンス及び ICSU 等分科会

第 3 回 (4/22) ～第 5 回 (6/18)

④ 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2013 分科会

第 1 回 (7/3)、第 2 回 (7/30)

⑤ 国際対応戦略立案分科会

第 5 回 (6/4)

2. Gサイエンス学術会議共同声明の総理手交：5月29日(東京)

それに係る TICAD V での展示：6月1、2日(横浜)

＊3月7～9日ニューデリーで計14か国が参加して開かれたGサイエンス学術会議において作成された「G8サミットに向けた各国学術会議の共同声明」

- ・ Driving Sustainable Development: the role of Science, Technology and Innovation (持続可能な開発の促進：科学・技術・イノベーションの役割)
- ・ Drug Resistance in Infectious Agents - A Global Threat to Humanity (病原微生物の薬剤耐性問題：人類への脅威)

3. 加盟国際学術団体の見直しならびに新規加盟

法学国際協会 (IALS) と国際オリエント・アジア研究連合 (IUOAS) の2団体の脱退、国際社会科学評議会 (ISSC) とアジア科学アカデミー・科学協会連合 (AASSA) の2団体の新規加入を幹事会決定 (新規加入団体については、現在、日本学術会議法第6条の2第2項の規定に基づく手続き中)

4. 国際学術団体等への貢献

(1) 国際科学会議 (International Council for Science: ICSU)

- ・ ICSU の基幹委員会 (Committee on Scientific Planning and Review, Urban

Health and Wellbeing, Regional Committee for Asia and the Pacific, Future Earth Science Committee, etc.) への参画

- ・ Future Earth : 学術フォーラム「Future Earth:持続可能な未来の社会へ向けて」開催 (6 月 18 日)、幹事会附置委員会「フューチャー・アースの推進に関する委員会」設置、国内外関係機関との協議、日本学術会議名で本部事務局ならびに地域事務所誘致の意思表示 (9 月 23 日)

(2) IAP (the global network of science academies)

- ・ 執行委員会メンバー国としての活動 (種々のコメント作成、承認事項)
- ・ 共同プロジェクトグラント申請 (スリランカ、オランダ)

(3) IAC (InterAcademy Council)

- ・ 理事会 : 6 月 25~26 日、アムステルダムで開催された理事会において、大西会長が理事に再選

(4) 世界科学フォーラム (World Science Forum: WSF)

- ・ WSF2013 'Science for Global Sustainable Development' (世界の持続可能な発展のための科学) 開催準備 (2013 年 11 月、リオデジャネイロ)
- ・ ICSU、UNESCO とパラレルセッション'Science and Technology in the Service of Disaster Risk Reduction' (減災のための科学・技術の役割) を共同担当

(5) 第 13 回アジア学術会議

- ・ 'Role of Science in Asia: Facing the Challenges of AEC 2015': 5 月 7~9 日、バンコク
- ・ 理事会 (共同声明発表)、共同プロジェクト・ワークショップ、国際シンポジウム「アジアにおける科学の役割」、基調講演「アジアの発展のチャレンジ」(アジア開発銀行ロハニ副総裁)、他に Future Earth をテーマにしたパネルディスカッション等

(6) 各国アカデミーとの交流

- ・ カナダ、ブルガリア、韓国、中国、ガーナ、イギリス、インド、イスラエル

5. 国際会議等への代表の派遣

- ・ ワールドサイエンスフォーラム運営委員会 : 4 月 5 日、パリ
- ・ STS フォーラム評議会 : 4 月 25~26 日、パリ
- ・ 第 13 回アジア学術会議 : 5 月 7 日~9 日、バンコク
- ・ 第 2 回 ICSU Scientific Committee, Programme on Urban Health and Wellbeing: 5 月 22~24 日、クアラルンプール
- ・ IAC 理事会 : 6 月 25~26 日、アムステルダム
- ・ ICSU Committee on Scientific Planning and Review : 9 月 26~27 日、パリ

他多数

6. 共同主催国際会議

- ・ 第 28 回国際化学療法学会（6/5～6/8、横浜市）
- ・ 第 11 回世界生物学的精神医学会国際会議（6/23～6/27、京都市）
天皇皇后両陛下御臨席
- ・ 2013 年京都国際地理学会議（8/4～8/9、京都市）
秋篠宮同妃両殿下御臨席
- ・ 第 3 回アジア太平洋発達障害会議 2013（8/21～8/24、東京都新宿区）
秋篠宮同妃両殿下御臨席
- ・ 第 5 回国際デザイン学会連合国際会議（8/26～8/30、東京都江東区）
皇太子殿下御臨席
- ・ 第 12 回ヒトプロテオーム機構国際会議（9/14～9/18、横浜市）
- ・ 第 16 回コンピュータ医用画像処理ならびにコンピュータ支援治療に関する
国際会議（9/22～9/26、名古屋市）
- ＊ 2016 年度に開催される国際会議を対象に、共同主催の募集中（10/1～11/29）

7. その他

(1) 海外からの表敬訪問

- ・ 駐日イスラエル大使：6 月 7 日
- ・ ガーナ人文科学アカデミー会長：7 月 18 日
- ・ チリ科学技術研究委員会会長：9 月 6 日
- ・ 南アフリカ科学技術省多国間協力課長及び駐日南アフリカ大使館科学技術担
当公使：9 月 10 日

(2) G8UK（ロンドン）、 UNISDR（ジュネーブ）

- ### (3) 生物兵器禁止条約専門家会議：8 月 13～15 日、ジュネーブ、声明「科学者の 行動規範－改訂版－」と報告「科学・技術のデュアルユース問題に関する検 討報告」の紹介

8. 今月の予定

- (1) 国際委員会開催：10 月 4 日、22 期最後の 1 年間の計画立案
- (2) STS フォーラム アカデミー会長会議主催：10 月 7 日（京都）
- (3) 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2013：10 月 9、10 日
（日本学術会議）
 - ・ 巨大複合災害（地震・津波・原子力発電所事故）－影響波及と対策、及び将
来に向けての政策選択－
 - ・ ICSU, IAP, IAC, UNU との共催
- (4) IAP 執行委員会参加：10 月 31 日、11 月 1 日（キャンベラ）

日本学術会議の国際活動報告



第165回総会 2013年10月2日

第22期日本学術会議

国際担当副会長 春日 文子

第22期日本学術会議の国際活動の方針



- 国際アカデミー活動における日本の科学者、科学・技術のプレゼンスの向上
 - － 世界から信頼され敬意を持たれる活動
 - － 各場面での積極的な参画
 - － 日本らしい貢献(ICSU, IAP, IAC, G-Science, G8UK, SCA, WSF, STS Forum, 二国間学術交流 etc.)
- 国内の各分野からの貢献の推進、支援
 - 多くの会員・連携会員の参加と連携(代表派遣、共同主催国際会議、加盟学術団体の見直し、加盟学術団体の活動支援、他)

Gサイエンス学術会議共同声明の総理手交



- 総理手交: 5月29日(総理官邸)
- TICAD Vでの共同声明展示: 6月1、2日(パシフィコ横浜)
 - 3月ニューデリーで14か国により作成された「G8サミットに向けた各国学術会議の共同声明」
 - 「持続可能な開発の促進: 科学・技術・イノベーションの役割」
 - 「病原微生物の薬剤耐性問題: 人類への脅威」
 - TICAD Vでは、フランス科学アカデミーの協力により、英仏二ヶ国語を展示



加盟国際学術団体の見直しならびに 新規加盟



第177回幹事会決定(8月22日)

- 国際社会科学評議会(ISSC)とアジア科学アカデミー・科学協会連合(AASSA)の2団体の新規加入
- 法学国際協会(IALS)と国際オリエント・アジア研究連合(IUOAS)の2団体の脱退

＊新規加入団体については、現在、日本学術会議法第6条の2第2項の規定に基づく手続き中

国際学術団体等への貢献



(1) 国際科学会議 (International Council for Science: ICSU)

- CSPR, Urban Health and Wellbeing, Regional Committee for Asia and the Pacific, Future Earth等、ポリシー委員会や新たな横断的プログラムへの日本学術会議からの推薦、参画
- Future Earth
 - Science Committee: 安成哲三会員選出
 - 国内体制づくり: 学術フォーラム開催、幹事会附置「フューチャー・アースの推進に関する委員会」設置、国内運営体制に関する外部諸機関との協議、本部事務局ならびに地域事務所誘致の意思表示

(2) IAP (the global network of science academies)

- 共同プロジェクトグラント申請(スリランカ、オランダ)

(3) IAC (InterAcademy Council)

- 理事会参加: 6月25～26日、アムステルダム
- 大西会長が理事に再選

国際学術団体等への貢献



(4) 世界科学フォーラム (World Science Forum: WSF)

- WSF2013(11月、リオデジャネイロ)開催準備「世界の持続可能な発展のための科学」
- ICSU、UNESCOとパラレルセッション「減災のための科学・技術の役割」共同担当

(5) 第13回アジア学術会議

- “Role of Science in Asia: Facing the Challenges of AEC 2015”: 5月7～9日、バンコク
- 理事会(共同声明発表)、共同プロジェクト・ワークショップ、国際シンポジウム「アジアにおける科学の役割」、基調講演「アジアの発展のチャレンジ」(アジア開発銀行ロハニ副総裁)、他にFuture Earthをテーマにしたパネルディスカッション等

(6) 大西会長自らの活躍

- G8UK(ロンドン)、UNISDR(ジュネーブ)



平成26年度共同主催国際会議

- 第28回国際化学療法学会(6/5～6/8、横浜)
- 第11回世界生物学的精神医学会国際会議(6/23～6/27、京都):天皇皇后両陛下御臨席
- 2013年京都国際地理学会議(8/4～8/9、京都):秋篠宮同妃両殿下御臨席
- 第3回アジア太平洋発達障害会議2013(8/21～8/24、東京):秋篠宮同妃両殿下御臨席
- 第5回国際デザイン学会連合国際会議(8/26～8/30、東京):皇太子殿下御臨席
- 第12回ヒトプロテオーム機構国際会議(9/14～9/18、横浜)
- 第16回コンピュータ医用画像処理ならびにコンピュータ支援治療に関する国際会議(9/22～9/26、名古屋)
- * 2016年度に開催される国際会議を対象に、共同主催の募集中(10/1～11/29)



その他の国際活動

(1) 各国アカデミーとの交流

- カナダ、ブルガリア、韓国、中国、ガーナ、イギリス、インド、イスラエル 他

(2) 海外からの表敬訪問

- 駐日イスラエル大使:6月7日
- ガーナ人文科学アカデミー会長:7月18日
- チリ科学技術研究委員会会長:9月6日
- 南アフリカ科学技術省多国間協力課長及び駐日南アフリカ大使館科学技術担当公使:9月10日

(3) 生物兵器禁止条約専門家会議

- 8月13～15日、ジュネーブ、外務省からの依頼
- 声明「科学者の行動規範－改訂版－」、報告「科学・技術のデュアルユース問題に関する検討報告」の紹介

IAC理事会、SCA、ガーナ人文科学アカデミー 会長と駐日イスラエル大使による表敬訪問



今月の予定



1. 国際委員会開催：10月4日
 - － 22期最後の1年間の計画立案
2. STSフォーラム アカデミー会長会議主催：10月7日（京都）
3. 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2013主催：10月9-10日（日本学術会議）
 - － 巨大複合災害（地震・津波・原子力発電所事故）－ 影響波及と対策、及び将来に向けての政策選択
 - － ICSU, IAP, IAC, UNUとの共催
4. IAP執行委員会：10月31日、11月1日（キャンベラ）



国際活動以外の副会長としての仕事

- 東日本大震災復興支援委員会
 - 放射能対策分科会
 - 福島県県民健康管理調査検討委員会
 - 甲状腺検査評価部会(仮称)
 - 原子力規制委員会「帰還に向けた安全・安心対策に関する検討チーム」
 - エネルギー供給問題検討分科会
 - 汚染水問題対応検討分科会
- 原子力利用の将来像についての検討委員会
- フューチャー・アースの推進に関する委員会
- 若手アカデミー委員会、選考委員会、他